

一人一人のニーズに応じた授業
数学科 学習指導案

日時	平成20年2月15日(金) 2校時	段階別	4段階相当
対象	中学部 数学Aグループ 男子4人(2年1人3年3人)女子1人(1年1人) 計5人		
場所	2階図工美術室	指導者	甲斐寛人

題材名 お金

題材について

本題材は、実際の広告やお金を扱いながら、買い物合計金額やおつりの計算をしたり、値段に見合うお金の出し方を工夫したりする活動を通して、実際の買い物に活かせるスキルを高める学習である。お金に関する学習では、その学習過程の中で、等価関係、金額の読み取り、単位と硬貨の関係、お金の出し方の工夫などの内容が考えられる。これは、これまでに学習した「数の読み」、「数の大小」、「十進法の位取り」、「基礎的な計算」などを活かすことができる内容でもある。

また、日常生活で、お金はとても身近で必要不可欠なものである。中学生になると、学校では作業学習の製品を販売したり、家庭では家の近くで買い物をしたりするなど、お金をやりとりする機会が増えていく。お金を上手に使えるようになるということは、現在または将来の生活を豊かにするために大切なことであるといえる。

生徒の実態

数学に興味があり、授業も楽しく取り組んでいる生徒が多い。特に、授業の中でゲーム的な要素を取り入れると、いつもより発言も活発になることがある。

計算に関しては、ほとんどの生徒が、3桁までの加減法や簡単な乗法、除法が一通りできる。また、買い物に関しては、一人でできる生徒もいる。

しかし、単純な計算はできても、それが実生活上の問題への応用になると、その計算力を活かすまでには至っていない。また、買い物に関しても、欲しい物を買いたい物かごに入れて終わるだけだったり、値段に見合った金額を準備することが難しく、状況に応じた適切なお金の支払いが不十分であったりする。また、授業中の教師とのやりとりに関しても、自分の思っていることを上手く伝えることができず、コミュニケーション能力がまだ十分とはいえないところもある。

指導観

本題材では、商品を複数購入したときの合計金額を計算したり、値段に見合うだけの金額を準備したりする活動を繰り返し行うことで、スムーズにお金を取り扱えるようにしていきたい。その際、電卓を使いながらおつりの計算をしたり、実物の紙幣や硬貨を操作したりしながら、興味や意欲を持って取り組めるようにしていきたい。

そして、生徒の実態に応じて買い物の条件の難易度を変えたり、ワークシートや硬貨の種類を把握しやすくするために教材を工夫したりして、個別の支援の充実も図りたい。さらに授業の中で身に付けたスキルを、学校だけでなく家庭や地域での生活にも活かせるように、家庭とも連携しながら、実際に一人で買い物ができるような機会を作ってもらい、家庭生活に活かすことができるようにしたい。

題材の目標

- 買い物の合計金額やおつりの計算がスムーズにできる。
- お金の出し方を工夫して、買い物をすることができる。

一人一人の実態から目標設定へ

対象	A(3年 男)	B(1年 女)	C(2年 男)
題材に関する基礎課題	<p>数量 桁数が大きくなっても、正確に加減法ができる。</p> <p>社会性 落ち着いて、ゆっくり相手と会話することができる。</p> <p>余暇 友達とマナーを守りながらかかわることができる。</p>	<p>数量 繰り返しの学習をすることで、計算の方法を定着することができる。</p> <p>社会性 苦手な事でも諦めずにねばり強く取り組むことができる。</p> <p>余暇 相手の気持ちを気遣いながら遊ぶことができる。</p>	<p>数量 一人で、お金を出して買い物をすることができる。</p> <p>社会性 友達を誘ったり、一緒に行動したりすることができる。</p> <p>余暇 簡単なトランプを使ったゲームを楽しむことができる。</p>
題材に関する実態	<p>関心 ゲームの要素を取り入れた学習に関心を示す。</p> <p>意欲 難しい課題には、意欲をもちにくい。</p> <p>態度 最後まで粘り強く課題に取り組むことが難しい。</p>	<p>関心 数学が好きで、どんな課題にも関心を示す。</p> <p>意欲 どんな課題に対しても意欲をもって取り組む。</p> <p>態度 発言や発表が積極的にできる。</p>	<p>関心 パソコンを使った学習に関心を示す。</p> <p>意欲 興味のない課題に対して意欲的に取り組むことが難しい。</p> <p>態度 授業の途中で、他のことに意識が向いてしまうことがある。</p>
教科の観点で	<p>数と計算 3桁までの大きな数について、読み書きや加減法ができる。</p> <p>実務 お金の種類、4桁程度までの値段の読み、等価関係、金額の大小が分かる。買い物に対する関心は高いが、保護者の支援を必要とする。</p>	<p>数と計算 3桁までの大きな数について、読み書きや加減法が正確にできる。</p> <p>実務 お金の種類、5桁程度の値段の読み、等価関係、金額の大小が分かる。買い物に対する関心も高く、一人で買い物ができる。</p>	<p>数と計算 3桁までの大きな数について、読み書きはできるが、加減法が不十分である。</p> <p>実務 お金の種類、4桁程度までの値段の読み、等価関係、金額の大小関係が分かる。買い物に対する関心は低く、保護者の支援を必要とする。</p>
題材の個人目標	<p>1種類の商品の合計金額やおつりを正確に計算することができる。</p> <p>できるだけ少ないおつりになるように、硬貨や紙幣の金額を確認しながら、お金を出すことができる。</p>	<p>複数の商品の合計金額やおつりを正確に計算することができる。</p> <p>最も少ないおつりになるように、硬貨や紙幣の金額を確認して、お金を出すことができる。</p>	<p>ワークシートを見ながら商品の合計金額やおつりの計算を一人ですることができる。</p> <p>ちよつどのお金がないときに、硬貨を組み合わせてお金を出すことができる。</p>

指導計画 総時間数 10時間

次	主な学習活動	時間	備考
一	1 合計金額やおつりの計算を知る。 ・ 電卓の使い方を知る。 ・ 合計金額の計算をする。 ・ おつりの計算をする。	5	硬貨 紙幣 電卓 ワークシート
二	2 お金の出し方を知る。 ・ ちょうどのお金を出す。 ・ おつりを少なくもらう。 ・ 値段に合う買い物をする。 ・ 買い物ゲームをする。	5 本時 (4/5)	硬貨 紙幣 電卓 ワークシート パソコン 封筒 財布

指導にあたって

1 合計金額やおつりの計算を知る。

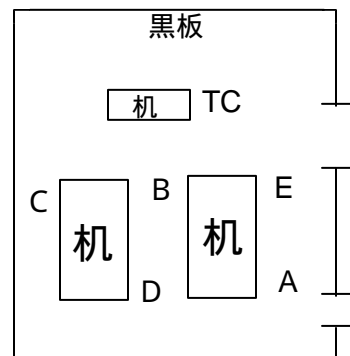
合計金額やおつりの計算をするときには、電卓を使って確実にできるようにする。
実際の製品や実物のお金を使うなど、より具体的な学習環境を工夫する。
おつりの計算をするときには、ワークシートを見ながら、順序よく計算できるように指導する。
作業学習や生活単元学習とも関連させて、指導していく。

2 お金の出し方を知る。

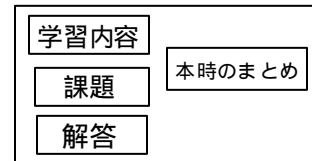
いろいろなお金の出し方が含まれる課題を設定して、生徒の実態に応じて取り組むことができるようにする。
おつりを少なくもらう場合とそうでない場合について、具体例を挙げながらその違いが分かるようにする。
課題の解き方に見通しが持ちにくい生徒には、その解き方をワークシートに示しておく。
家庭とも連携しながら、実際の買い物に結び付けられるようにする。

場の設定・板書計画など

1 場の設定



2 板書計画



本時の実際(40分)

	全体	個人
目標	いろいろな紙幣や硬貨を使って、品物の値段に応じたお金の出し方ができる。	
主な学習活動	<p>1 はじめのあいさつ</p> <p>2 前時の復習 ・ お金の出し方の確認 ・ ワークシートの確認</p> <p>3 本時の学習内容の確認 お金の出し方を考えよう</p> <p>4 課題に挑戦 (1) 課題を知る。 お肉1パックとにんじん5本を買ってきてください。 * お肉 1パック 1,000円 にんじん 1本 48円 合計 1,240円 * 財布, ワークシート</p> <p>(2) 合計金額とお金の出し方の確認をする。</p> <p>5 各自の課題への挑戦 (1) 課題を知る。 封筒 ⇨ 課題内容 * 各自の実態に応じた課題 * 商品の写真 * 財布, ワークシート</p> <p>(2) 課題を考える。</p>	
導入 10分		
展開 25分		
終末 5分	<p>6 本時のまとめ さいふの中を確認する。 おつりを少なくする。</p> <p>7 次時の確認</p> <p>8 終わりのあいさつ</p>	

	A(3年 男)	B(1年 女)	C(2年 男)
指導上の留意点	課題の内容を理解し、最も少ないおつりになるようにお金を出すことができる。	お金の桁の大小に関わらず、最も少ないおつりになるように、お金を出すことができる。	できるだけ少ないおつりになるようなお金の出し方を、いろいろと自分で考えることができる。
指導上の留意点	<p>・ 学習の始まりを意識し、大きな声であいさつできるようにする。</p> <p>・ 前時までの学習を思い出し、本時の学習がスムーズに行えるようにする。</p> <p>・ 前時に使ったワークシートを見て、何をしたのか確認する。</p> <p>・ 本時の学習内容を黒板に示すことで、活動への見通しをもち、意識を高められるようにする。</p> <p>・ 課題の内容をパソコンで説明することで、興味を持って取り組めるようにする。</p> <p>・ 財布の中には、1000円札を2枚、100円硬貨を4枚、50円硬貨を2枚を入れておく。</p>		
	課題で大事な部分(何を、いくつなど)を で囲むように言葉掛けを行う。	みんなの前で発表する時には、落ち着いてゆっくり説明するように言葉掛けを行う。	課題を一人で考えられるように、ワークシートには、ヒントや手順を書いておく。
	<p>・ ワークシートと電卓を使いながら、合計金額やお金の出し方を考えられるようにする。</p> <p>・ 解答が終わった生徒を指名し、課題の答えを、黒板で説明するようにする。</p> <p>・ 解き方やお金の出し方をみんなで確認して、次に進むようにする。</p>		
	おつりが少なくなるようなお金の出し方を、いろいろと試す中で、最も少ないおつりになるようなお金の出し方ができる。	お金の桁が大きい場合でも同じように計算し、最も少ないおつりになるようなお金の出し方ができる。	硬貨の種類と枚数を一つ一つ確認しながら、いろいろな硬貨の組み合わせを考えることができる。
	ワークシートの中に、答えの欄を複数設け、一つの答えだけで終わらないように工夫する。	分からなくなったときには、共通課題の時に取り組んだワークシートを確認しながら考えるように言葉掛けを行う。	一度教師が模範を示してみせる中で、お金の出し方が分かるようにする。
	<p>・ 机間巡視で解答と支援をする。</p> <p>・ 本時のまとめでは、今日学習したことを、声に出して復唱し確認する。</p> <p>・ 次時の確認では、今日学習したことを基に買い物ゲームをすることを伝え、次時への興味をもつことができるようにする。</p> <p>・ 学習の終わりを意識し、大きな声であいさつができるようにする。</p>		

個別の手だて

重要評価ポイント